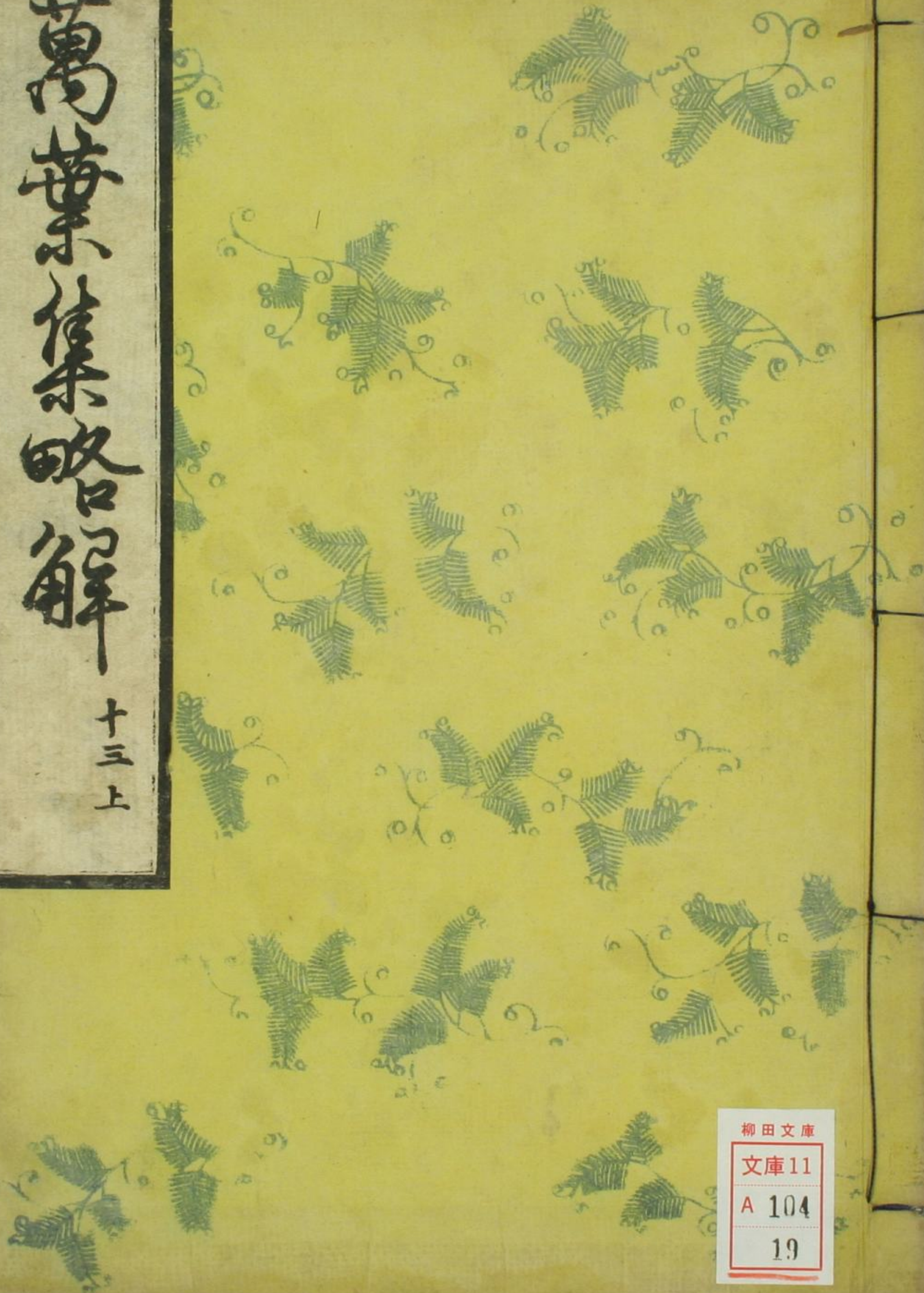


萬葉集略解

十三上



柳田文庫
文庫11
A 104
19





前
 後
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



1851 59
 1851 59

文庫11
A 104
19

萬葉集卷第十三

雜歌二十七首

相聞歌五十七首

問答歌十八首

譬諭歌一首

挽歌二十四首

柳田泉文庫

48 10657
48 10657



成盛
誤

魁塔二十四首

魁塔一首

開塔十八首

時開塔五十五首

藤塔二十首

萬葉集卷第十三

万解十三上目一

雜歌 是中長歌十六首

冬木成 春去來者

朝雨波 白露置

夕雨波

ふゆごむゆはるささくれはあたまはるつゆおきゆづべりは

霞多奈妣久 汗湍能振樹奴禮我之多爾鷺鳴母

かきみたちびくあめのふるこぬれがたふうらひをさくも

成盛の誤はるささくれはあたまはるつゆおきゆづべりは

志のよむへうらひ元原本湍と瑞は此句地名をうてハ一そのこと

極ちうらひ、夏のうらひあるを奇は地名と奉いさぬハんかさこのこと

のこそと今せんふかきまひのこもんさるれば汗微並能とあ

るわよの誤わさるんし翁いそれき林さびん鹿子の林南浦のこ

宮も既、漸諸能夜よそいあんうらひつゆおきづべりこあれハ指さる

集本本まらうらひさるぬれよむべりこむあしかささうせりこも集本

みぢりし傳しものもかもの歌

右一首

三諸者人之守山 本邊者 馬酔木花開 末邊方

みぢりし傳しものもかもの歌

椿 花 開 浦妙 山曾 泣兒守山

つたまをわさくこうらぐりやまぞわつくこもるやま

みもろと三輪といふおぼのまよふみちの非まじく人のまらひ

まらひとまらふ小輪といふおぼのまよふみちの非まじく人のまらひ

まらひの目もいふおぼのまよふみちの非まじく人のまらひ

旅略れつせのやまに阿野字澤度波斯といふ阿くうらひはく

へ木小ほゆる河にほアま山まよふみちの非まじく人のまらひ

韓といふやぶが三つのももく一例も

右一首

霹靂之日香天之 九月乃 鍾禮乃落者 鴈音文

わらわのいのちもそとのわらわづきのまぐれのまらひかあがねも

ホ来鳴 神南備乃 清三田屋乃 垣津田乃

いまいさかのやぶがみちのまよふみちの非まじく人のまらひ

池之堤之 百不足 五十槻枝丹 水枝指 秋 赤

いけのつみのまらひはくうらひはくうらひはくうらひはくうらひ

葉 真割持 小鈴文由良爾手弱女爾 吾者有友

ちまもろとまらふ小輪といふおぼのまよふみちの非まじく人のまらひ

引攀而 峯文 十遠仁棟手折 吾者持而往 公之

いさよもろとまらふ小輪といふおぼのまよふみちの非まじく人のまらひ

頭刺荷

五ノ二 誤

かざりみ

霹靂和名抄加美止今病これ、字は返じうぐ、いさる、まみと訓
 一、ちるかみハむらりいけ、木垣と、ひらるのると、略、字、係、
 ちる記井よ、出さる人の支智と、井氷磨と名づ、とい、う、け、
 句ハ、星、さ、く、く、く、く、か、さ、る、く、く、神代紀唯、有、朝、霧、而、薫、
 満、一、裁、し、い、る、や、さ、づ、れ、は、く、筆、度、ま、ち、く、目、を、さ、ら、ん、
 九月のまのさ、ま、ん、と、病、い、れ、さ、れ、い、う、さ、る、い、う、相、係、ま、か、れ、
 志、り、く、古、訓、と、か、た、り、番、ハ、さ、る、か、く、か、さ、る、い、う、ま、ん、う、室、を、ま、
 二、句、い、く、く、譯、字、と、ま、き、こ、ゆ、又、二、の、句、の、ま、く、と、ま、く、ま、か、ち、る、ま、
 雨、霧、合、渡、日、香、久、之、丸、霧、合、と、霧、之、と、係、れ、ら、う、く、の、雨、の、ま、く、と、
 と、か、ら、る、霹、を、ま、く、く、改、め、ら、う、く、渡、の、字、取、せ、り、卷、三、は、度、日、
 の、ま、く、く、ら、い、ま、り、い、う、り、粒、考、へ、り、か、さ、ぬ、ま、く、と、う、う、ど、か、さ、ぬ、と、

一、万解十三、一、二

霹靂冠、釋考、み、く、く、文、未、二、字、率、の、字、の、係、れ、る、ま、く、く、い、ま、
 の、ま、く、と、訓、へ、り、ま、く、れ、ら、う、く、ま、く、ら、は、る、く、の、ま、く、ま、く、く、く、く、く、
 天、垂、ま、く、く、考、ま、い、う、ま、く、ま、く、く、田、や、神、の、法、田、を、植、え、り、卷、三、は、度、日、
 屋、と、ま、く、く、垣、津、田、ハ、田、田、ハ、ま、く、の、垣、内、の、田、ハ、神、代、紀、ハ、天、垣、
 田、為、御、田、百、ふ、是、地、垣、い、つ、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、
 ま、く、く、く、法、田、厚、の、ま、く、く、あ、れ、ハ、齋、垣、ハ、齋、垣、と、い、う、ま、く、く、く、く、
 水、枝、ハ、ま、く、く、く、ま、く、く、枝、と、り、ま、く、の、ま、く、く、枝、ハ、あ、ま、い、つ、ま、く、く、け、ま、く、
 ま、く、く、ま、く、く、の、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、割、ハ、訓、字、ハ、ま、く、
 ま、く、く、ま、く、く、紀、ハ、瓊、郷、音、瑤、と、を、ぬ、ま、く、く、ま、く、く、訓、て、ま、く、く、枝、と、
 時、訓、ハ、ま、く、く、の、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、近、多、二、字、の、係、れ、る、ま、く、く、
 ま、く、く、く、枝、と、れ、ま、く、く、ま、く、く、く、く、く、く、の、ま、く、く、訓、ハ、ま、く、
 か、く、く、公、夫、と、ま、く、く、か、く、く、遊、宴、ホ、の、時、ま、く、く、の、枝、と、冠、ま、く、

ま、く、く、く、冠、釋、考、み、く、く、文、未、二、字、率、の、字、の、係、れ、る、ま、く、く、い、ま、
 の、ま、く、と、訓、へ、り、ま、く、れ、ら、う、く、ま、く、ら、は、る、く、の、ま、く、ま、く、く、く、く、く、
 天、垂、ま、く、く、考、ま、い、う、ま、く、ま、く、く、田、や、神、の、法、田、を、植、え、り、卷、三、は、度、日、
 屋、と、ま、く、く、垣、津、田、ハ、田、田、ハ、ま、く、の、垣、内、の、田、ハ、神、代、紀、ハ、天、垣、
 田、為、御、田、百、ふ、是、地、垣、い、つ、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、
 ま、く、く、く、法、田、厚、の、ま、く、く、あ、れ、ハ、齋、垣、ハ、齋、垣、と、い、う、ま、く、く、く、く、
 水、枝、ハ、ま、く、く、く、ま、く、く、枝、と、り、ま、く、の、ま、く、く、枝、ハ、あ、ま、い、つ、ま、く、く、け、ま、く、
 ま、く、く、ま、く、く、の、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、割、ハ、訓、字、ハ、ま、く、
 ま、く、く、ま、く、く、紀、ハ、瓊、郷、音、瑤、と、を、ぬ、ま、く、く、ま、く、く、訓、て、ま、く、く、枝、と、
 時、訓、ハ、ま、く、く、の、ま、く、く、ま、く、く、ま、く、く、近、多、二、字、の、係、れ、る、ま、く、く、
 ま、く、く、く、枝、と、れ、ま、く、く、ま、く、く、く、く、く、く、の、ま、く、く、訓、ハ、ま、く、
 か、く、く、公、夫、と、ま、く、く、か、く、く、遊、宴、ホ、の、時、ま、く、く、の、枝、と、冠、ま、く、

嶋子の右にたふさきとていふ

反歌

獨耳見者戀染神名火乃山黄葉手折来君

いよあのみこれいひいひかみちひのやまのあみちばたをちかみ

あまのほろとらひいひいよまじといふいひの尾よつてささるる

さかちかうとつれれどさあのをさよかみりて

此一首入道殿讀出給 古本は九字をいはずは讀ハ何とぞ

たふさき

右二首

天雲之 影寒所見 隱来笑 長谷之河者浦無蚊

あまのこのかげさみゆるこわらぬのをつせのかちうらなみ

船之依不来磯無蚊 海部之釣不為吉咲ハ師浦者無友

寒ハ塞
ノ誤

寺ハ志
ノ誤
ノ誤

あまのこのかげさみゆるこわらぬのをつせのかちうらなみ

吉書矢寺儀者無友奥津浪 諍接八来 白水郎之釣船

よらちやいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひいひ

やの釣のつらぬれぬてはさき 寒ハ塞と誤れるへさへのつらぬれぬ

こわらぬのたねをつせの河ハ城上郡浦をうらなみハ句ハ二人

麻呂のちハ何ん寺ハ志の誤らぬハ 詠まつはると川中とおこしとい

るハ 詠のちよきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき

反歌

沙耶禮浪淳而流長谷河可依磯之無蚊不怜也

さねるるびりさうたうるハはつせのよきよきよきよきよきよき

浮ハ浦の流ハ比川のえぬともしる水ハ傍がぬれはつせのよきよき

反ヲ友
ニ誤

いづれよもろくは身と累さなり

右二首

葦原笑水穂之國丹 午向為跡 天降座兼 五百萬
あつらひのふつものくやたむけをくあむりまけいほもろつ
千萬神之神代從 云續來在 甘南備乃 三諸山者
ちよろつこのかみよるといひつてたるかみさびのくもろのちま
春去者 春霞立 秋往者 紅丹穂經 甘南備乃
はるをれいづかきふくもあさゆけぐれちあむりかこむの
三諸乃神之帶為 明日香之河之水尾遠 生多米難
みちのののむしよはるあむりのかみのみをはいおひあがさ
石枕 薙生左右ニ 新夜乃好去 通牟 事計
いづれよもろくは身と累さなり

天降

霞ヲ霰
三誤

二誤

夢雨令見社 劔刀 齋祭 神一師座者

いづれよもろくは身と累さなり
葦原のこゝ此國の地もろくもろくもろくは水に傍ありて 稚穂之午向
はるは 程河の午長の海世とのくもろくもろくは 水に傍ありて 稚穂之午向
くもろくもろくは 五百萬もろくもろくは 天孫天降す 時後いなり
法の神こと 神代より 神智河賀夜奈流美命 御魂 飛
鳥乃神南備 坐天 神代より 始めく 坐す 坐せり
されは 宮も 來在 來去の 後 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す
る あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
と あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す
坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す 坐す

みてぐるをならしむらいでみづとほづみいふとちかみたる
坂手平過 石走 甘南備山丹 朝宮 仕奉而
さのてをさぐらいたをのあみまじやまふあさみやよつとまつめて
吉野部登八座見者 古所念
よぬへとつちまをみればいふへおしやゆ

みてぐるをいぢをたてしつとを暇を捕へ奈良宮へ和銅三年奈良
良へ遷りて、信杖入流使立り度や、出に内裏より出るといひ
入に内裏へ入るといひ、水邊を杖河、楳嶺十市町に蒲津村
といふと、とみまを杖河、坂子、系新紀坂手池を化とよむ、城下郡
坂手村といふと、とみまの杖河と通ひ、石川の杖河、新宮といはまつ
てと、たまたまよりあきまで、今遷りしやあれ、信杖よへハ、新宮の
難宮に宮りて、つる新宮の流るはは、はまもたつて、よゆへと

新宮に、新宮といふ昔、新宮のけさ、信杖とらぬ、入まるとあつといふ
その新宮といふのあちと、新宮といふ治田園本、後宮本、法隆原
宮まで、信杖の都のうらなれ、信杖は、いふと、幸しと
お、藤原、奈良、都遠ざかりて、かゝるもの、つと、いふは、
い、さの、の、ち、の、わ、さ、ら、れ、て、新宮、か、よ、ろ、と、い、ふ、と、い、つ、と、い、つ、
と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、
て、い、い、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、
都の、信、杖、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、
を、押、入、幸、の、時、の、の、新、宮、の、行、宮、の、一、帯、法、止、宮、あ、り、と、い、つ、と、い、つ、
の、信、杖、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、
は、あ、り、新、宮、の、行、宮、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、
宮、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、と、い、つ、

反歌

月日攝友久經流三諸之山礪津宮地

つぎといふかいつゆげといふふふふふふのやまのつみやとてつ

持統天皇藤原へ遷りて、又文明天皇奈良へ遷るは、おなを

ハ三代までと本々といつ、うまは攝代也といふ、攝の下位の字取

ちとて、三雷のふりかきせるもといつとみりまこ、こよ歌

此歌入道殿讀出給

古なきはつらふり、な隆へ

右二首但或本歌曰故王都跡津宮地也

斧取而 丹生捨山 木折来而 機雨作 二握貫

をのともて、みぶのいやまのまこつらふり、とよねつらふり、ちぬき

儀榜回下 島傳 雖見不飽 三吉野乃瀧動動

万解十三上 八

いそぎたみつ、ままついみれ、あのもみぬのたき、こころふ
落 白 浪

おつるまゝらみ

去軍の丹生、機ハ古本機官を艦一本機とて、卷十九機とねと
又、まねぬさ、たためめをとり、これハ去舟の大跡をさへ

旋頭歌

三芳野瀧動動落白浪留西妹見卷欲白浪

みゆぬのたき、こころふおつるまゝらみ、とよねつらふり、いかにみせさく

ほりき、こころらみ

そハ反身うつかり、ちとて、一動、落のまき、さうつらふり、つらふり、つらふり、つらふり、
ちとて、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、
反、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、つらふり、

考し海らわれしふらわ。そのてそのまはたはあふくくしこのちよの
そちあはしこのあめくあふかたつる。ふいあふあまのま。のあま
みんあふ。あまあふ。あまあふ。あまあふ。あまあふ。あまあふ。

右二首

八隅知之和期大皇。高照。日之皇子之。聞食。
やまふ。わおほきみ。たのしいの。みこの。まこ。をさ
御食都國神風之伊勢乃國者國見者。之毛山見者。
みつとふ。かかせのいせのくふくふみれ。もやまみれ。バ
高貴之。河見者左夜氣久清之水門成。海も廣之。
たのたわ。かみれ。きさき。えさ。か。ら。う。ま。ま。び。り。
見渡。島名高之。已許乎志毛。間細美香母挂卷毛。
みわたの。志まの。な。た。の。こ。を。も。ま。ま。り。み。の。か。け。ま。く。も。

文爾恐。山邊乃五十師乃原雨内日刺大宮都可倍。
あやまか。ま。ま。の。い。の。う。ふ。も。い。さ。せ。ね。か。み。や。つ。の。屋。
朝日奈須目細毛。暮日奈須浦細毛。春山之。
あさひ。な。す。ま。く。も。も。ゆ。あ。ひ。さ。す。う。く。も。も。は。る。や。ま。の。
四名比盛而。秋山之色名付思吉百磯城之大宮人者。
あまの。い。の。ろ。て。あ。ま。の。い。の。ろ。て。あ。ま。の。い。の。ろ。て。あ。ま。の。い。の。ろ。て。
天地與日月共。萬代雨母我。
あめつちとひつきともわらぶ。よふあまの。

みつとふ。い。大。神。食。の。か。ま。な。る。困。と。り。ふ。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。
之毛の上。河。海。の。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。
くん。又。之。の。保。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。
名。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。あ。ま。

左のちもたもほづるよ。わらひきかけ。ちつるよ。いづるのかかけ
下枝雨此米乎懸。已之母乎取久乎不知。已之父乎
走つるふまめをわけ。走つるくんと走つるくんと走つるがどつと
取久乎思良爾伊蘇婆比座與伊加流我等此米登

やち、教をまをといふをまを、まを今をりて、わらひきかけ、
わらひきかけ、いづるくんと、いづるくんと、いづるくんと、
斑鳩とも、和名抄に鶺鴒伊加流とも、走つるくんと、鶺鴒之小者雀也とも、この二つ
枝に如く、娘をくんと、走つるくんと、一節明るく、伊加流湯宮、
旭此米二鳥大、鳥集りて、稲穂を掛り、若り、めあくるく、
走つるくんと、走つるくんと、走つるくんと、走つるくんと、
走つるくんと、走つるくんと、走つるくんと、走つるくんと、

とくも延まると、走つるくんと、走つるくんと、伊蘇婆比の伊阿の字
の僕も、遊むと、又伊加流と、走つるくんと、走つるくんと、
枕が、いふ、いふ、いふ、いふ、崇神紀、いふ、いふ、
おのく、食さん、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

右一首

王 命 恐 雖見不飽 搗山越而 真木積
おほきまみのみこをかこみ、れどあつぬちらやまこころ、
泉河乃 速瀬 竿刺渡 千速振 氏渡乃
いづみのかみのを、いづみのを、いづみのを、いづみのを、
多企都瀬卒見乍渡而 近江道乃相坂山丹 手向為

たぎつせとみつわふてあふみちのあふまのたまふたむけり
吾越往者樂浪乃 志我能韓埒幸有者 又反見
わのこえあけばさやあんの志のかきまきまふのいふまふかつみむ
道前 八十阿每 嗟乍 吾過往者 彌遠丹
みちのくまやそくまごんたむけつわつたまゆげいやとほふ
里離來奴 彌高二 山文越來奴 劔刀 鞘從拔出而
さもけあまきむいたのまもこえまあつぎだちまゆめいて
伊香胡山如何吾將為往邊不知而
いのがやまいわのせんゆくとまらどて

たまつるま十一宮村川島のそまふ立民のこよあふいそまなとは
川邊より移つてまへ、まうくハスううん、生河なるまの移あふむた
はよいつるめく老配流の度又のこのまらど、企宜の流、なまたぎ

歎難
ニ誤

のまは流まを月ひりつるまは林河、いづまむる物、伊香野伊香
あり、たちを難より扱あく撃とわれ、崇神元撃刀とたち、まらど、
伊ハ後流、まらど、いづとまらど、いづり、り、む難考、まらど、

反歌

天地乎歎乞禱幸有者又反見思我能韓埒
あめつちをなげきこひのみまきかへまらかへりみん志のからまき

歎とくを難みゆるハ流ん

右二首但此短歌者或書云德積朝臣老配於佐渡之時
作歌者也 吾老五年の紀、正月老を流さう、う、又ゆ、こ、後、年、の
こ、あ、う、ま、ま、年、も、同、時、同、人、の、よ、あ、ら、ま、ら、ど、ま、ら、ど、と、流、ま、の、老
の、年、と、後、せ、ら、い、づ、あ、ら、ま

百岐年 三野之国之高北之八十一隣之宮雨 日向爾

岐八詩
誤カ

跡
踏
誤
カ

まゝねみぬのたのきたのくまのみやまひむらひ
行齋關矣有登聞而 吾通道之 奥十山 三野之山
ゆきさなひとありまきしつわがかりしちの おきそやまみぬのやま
靡得 人雖跡 如此依等人雖衝 無意 山之
かのひけとひとあふもかくよれといつげさくそまきやまの
奥儀山 三野之山
おきそやまみぬのやま

百の下岐ハ詩のよの保くまゝねみぬのたのきたのくまのみやまひむらひ

二月幸美濃 三野之山 詠宮北云區 政利能孫御

とつたふらふが、ハ、隣ハ仔の成ちる人日向ま、西の方といふ、ゆきさ
なひとありまきしつわがかりしちの おきそやまみぬのやま
あゆみゆくまゝねみぬのたのきたのくまのみやまひむらひ

彼
區
誤
カ

剛いてまうのみやまひむらひのたのきたのくまのみやまひむらひ
古ハ宮多を信國ハ封多ハ、もと女まきもの、いさかを延く、
アといれき、
郡内吉籾小吉籾二村と信濃國よつけられ、
後、これハ二つ代のあま、
大吉籾をぬく、
誤るまゝ、
知らぬハ、

右一首

處女等之麻笥岳有 續麻成 長門之浦丹朝奈祇雨
満来塩之 夕奈祇雨依来波乃 波塩乃伊夜益舛二

みちるまのゆのまきよよあくるたみのそのほのいふまあこ
 彼浪乃 伊夜敷布二五妹子雨戀乍来者 阿胡之海之
 そのわのみのいやちくるわぎしふこいつくれはあごのうみの
 荒磯之於二濱菜採海部處女等纓有 領中文光蟹
 ああそのうへをままつむあまをめぐつうたのせるひれしてさうん
 年二巻流玉毛湯良羅爾白栲乃袖振所見津相思羅霜
 てふまけるたまもゆるにまろのそでさみえつあひかきりも

そけいれうのうみふれてまこころをそへんてんてん浦
 其九女恋國長門島船泊とてあまよまへは胡海は後後傳の
 内さしたあうしとあうれきさきまこころをそへんてんてん浦
 左に核は因縁者の後へいつは波嶺の波は彼を信あるこまきりも
 重くくわきよよこいつくれは在國の伝てこのわらるる人へは後後

いそちりつは海部女等の下之のうまへへ一櫻うまへは
 らのし^{オト}多^タ奈^ナは安^ア多^タ廻^マ行^ウ奈^ナ餓^ガ勢^セ屢^ル又^マ嬰^エ頸^ケ之^ノ瓊^シとみりかければと何
 とあやうきうへに頭を飾りしとてうれに思ひうみくあま
 ゆ〜ハ動^ウ鳴^ルしりよこれハまあるの味をさうくれはは土を女とまね
 をおとそへん神とさうりつとてあまをめぐつうたのせるひれしてさうん
 へかくるなれこそのさおごり

反歌

阿胡乃海之荒磯之上之小浪五口戀者息時毛無

あごのうみのあまのうみのさうらわのふりしつとてあまをめぐつうたのせるひれしてさうん

右二首

天橋文 長雲鴨 高山文 高雲鴨 月夜見乃

あまはしもなごもがもたのやまいだうくもがもつきまの
持越有水 伊取来而 公奉而 越得之早母

かちらせらるみづといひらきまきままつあてこえんとしはも
神代紀ニ自穂日ニ上天浮橋立浮備在平處と有り天ニ昇るは
橋よりふくも橋をのれと成りふくまもふく天一昇るははれ
ハ海よりれと成りふくも橋をのれと成りふくまもふく天一昇るははれ
の持るれがくぞく、いひらきまきままつあてこえんとしはも
りハ、幸ハ命のさくく久しきいそしるたふみのくと成りてのみつ又
考と書し上流より下流へ流れて居るふくを成りては、向延と成りて
まして月の物もやると成りて居るふくより下流へ流れて居るふく
年と成りて居るふくより下流へ流れて居るふくより下流へ流れて居るふく
れを台記別記中臣壽詞より皇御孫尊乃御膳都水也宇都志国乃

水戸天都水遠 主奉年止申 遠々、天乃ハ井出 如此持天都水止所國

食止車依奉支 ともいふふより下へ早をばのりてしハ、

とくきやハ早敷夜之とも成りて久老考子持越有水ハ
持有越水ともいふハ、得之の下早ハ年の深なり、エウと云ハ、
ゆきるとちみつ、まハをちとくハ、あハ、とちの約ハ、まづく神の
へ返りて、ともいふハ、古語と成りて、とちの約ハ、まづく神の
水と云ハ、ともいふハ、ハ、あハ、とちの約ハ、まづく神の
出雲國造神皇御子須く、伎振遠止美乃水乃、保平知亦御表知也、
れ天皇のよも、ゆりふも、ゆりまも、と云ハ、あハ、とちの約ハ、まづく神の

反歌

天有哉月日如吾思有公之日異老落惜毛

あめちかき 天の玉を流し給ふ神の御心

あめちかき 天の玉を流し給ふ神の御心

右二首

沼名河之底天流玉 求而得之 玉可毛拾而得之

ぬまがほのそこのちたまをりてえりたまがひろひてえり

玉可毛安多良思吉君之老落 惜毛

たまがもあつらふききみのおゆるくをりし

ぬまがほのそこのちたまをりてえりたまがひろひてえり

あつらふききみのおゆるくをりし

御傳 神傳名川耳天等 神傳名倉玉敷天皇 天傳名原廣真人天等

吉野の山 玉皇神 玉皇神 玉皇神

誤ニ

右一首

相聞 此中長歌二十九首

式島之 山跡之土丹人多 滿而雖有 藤浪乃

まきまのちまのくまひとまふみちうあれたまちまの

思 纏 若草乃 思就西 君自二 戀ハ將明

おもひまつまのちまのくまひとまふみちうあれたまちまの

長此夜半 かつまこのよあま

まきまのちまのくまひとまふみちうあれたまちまの

あつらふききみのおゆるくをりし

目とつらふききみのおゆるくをりし

反歌

式島乃山跡乃士丹人二有年念者難可將嗟
志き一まのやまのくまひいとさうあつてわはたふのまけいん

わのあつて人のさうさうまのあつて何のまげさきん此下よ吾哉
難ニ加しもう難ハ考と信れん

右二首

蜻島 倭之國者 神柄跡 言擧不為國 雖然

あきつーまやまのくまかんごうとあげせぬふまのれど
吾者事上為 天地之 神毛甚 吾念 心

われいさあけとあめつちのかふもはあつてわがあつて
不知哉往影乃 月文経往者王蜻 日文 累

志らさやゆかげのつきへゆけがさるひのいとかさつあつて
念戸鴨 胃不安 慮列鴨 心痛 未遂爾

蜻ヲ限
ニ誤

廿二日 君年 相見天者社 吾慮ハ鬼目
君丹不會者吾命乃 生 極 慮不文五者將度

大馬鏡 正月 君年 相見天者社 吾慮ハ鬼目
まろがふまもめあふまみとあひみてこころわのくいやあかん

神々々々 是はたよいう人麻呂家集は同く神右隨くちよ依ふ神ニ
〜〜のぶくてもや田に別れを在まふ〜〜言事やの因
人の心もしてぬぐ〜〜言い〜〜わけもの〜〜言んゆの月
へのけ〜〜月影のゆ〜〜月影の〜〜い〜〜い〜
往新いり必あ〜〜の〜〜考へきす〜〜限と
る〜〜玉塔ハ柱何おも〜〜い〜〜い〜〜のい
あ〜〜も〜〜後柱河湊大追馬とあつ〜〜正月併足石あよ〜〜い〜

惜情
二誤

麻作本ヨリ人トモクモのあつうのこゝろあひみて
いとゆるめけりしとるる一鬼の魔の候も
女のちかき一

反歌

大舟能思慮君故爾盡心者惜雲梨

おがしねのあひたのめをたゆめよしんか
たぶの地ねもちよをなまよしんか

久堅之玉都年置而草枕羈往君年何時可將待

いさかしのみやことおやうしんか
久このあまうしんか

折本朝臣人麻呂歌集歌曰

そなたのあまのひききうま

万解十三上 二十

敷雨
倒置

葦原 水穂國者 神在隨事舉不為國 雖然

あつうのみづのくにハかんちううもあけせぬふ
辭舉叙 吾為 言幸 真福座跡 恙無

福座者 荒磯浪 有毛見登 百重波 千重浪

敷雨 言上為吾

志きふくあげらるわれ

神さぐハ神さぐ在まふらうとまもむとま
あまのひききうま

あまのひききうま

あまのひききうま

あまのひききうま

あまのひききうま

ひきぬふはのまゝくはるる人たれど、ある人か、きぬれぬと、かゝ
ぞよるは、きぬくまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、
ひつと、きぬくひつと、

反歌

數數丹不思人者 雖有斬文吾者 忘枝沼鴨

世の人のカエ、くまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、
直不来自此巨勢道柄 石椅跡名積序吾来 總天窮見
たふと、くまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、
たふと、くまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、
たふと、くまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、

この椅跡も瀬踏のつもの語のちるる、又椅ハ此次より思足椅とまで椅
ハ矢椅と、いふ、傳へたるもの

或本以此歌一首為之紀伊國之濱爾縁云 顛珠拾爾登
謂而往之君何時到来哥之反歌也 具見下也 但依古本
亦累載茲

紀伊國之、のち、奇ハ、此、下、下、下、考、い、ち、た、の、後、古、の、ち、前、ハ、
その人か、きぬれぬと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、まのまゝと、
校合の柳きんと、

右三首

荒玉之年者来去而 玉梓之 使之不来者霞立
あらしのまの、と、まの、まの、まの、まの、まの、まの、まの、
長春日宇 天地丹 思足椅 帶乳根笑母之養蚕之

ながきとるびとあつちふおひたらふたらねのうらみかよこの
 眉隠 氣衝渡 吾戀 心中少 人丹言
 まゆこわいきづきわらふわづこあるこのうちをひらふいよ
 物西不有者 松根 松事遠 天傳日之闇者
 そのみあふねばまつねのまつこわいあつちよひのされぬれハ
 白木綿之吾衣袖裳 通手沾沼
 志ろくのわづこわでもわめてぬれぬ

あつちよのむづこあつちよつ松根年ハオゆきてハ年の終るをりよ
 ちよ記年ハきへゆくもを甲て地ハおひたふりハあひみへひるこ
 たらねの指何母がりこころハ春のまゆはねるわりのうらみはたよ
 本十二は母のよこのまゆのわりのうらみとてうらみハせむとねむ
 づきつげらういきづきわらうハオ大息ハ心中サのサハ年のほらねののて

俣下松河下のねハ信よまて待すこ白木綿こハ志ろくのちをハナツク
 一木綿ハ幣の字のほらるあやとらうてぬれぬハようとゆくハまねま
 くる衣までぬれをここれハ女のちをこハ
 反歌
 如是耳師相不思議者天雲之外衣君者可有有来
 かくのみーあひしとさうばあまごのよそまきみハあるべのうける
かのうーハ一の男天きのハハをこくんと狩へくとめやちよてくよてあつ
 ちよのちよさうよきとん

右二首
 小沼田之年魚道之水平間無曾 人者挹云 時自久曾
 をぬまのあゆちのみづをしまるくがひとハくむとよときで
 人者飲云 挹人之無間之如 飲人之 不時之如

いとめむとくひひめいままをいへるさるるのさるる
吾妹子爾吾戀良久波已時毛無
わきまふわのふらとくやむときもたう

續紀尾張国山田郡小治田連薬師等賜姓尾張宿祢と云山田愛智
二段ハ隣されば小治田のあゆをこころいふれはこころ小治田より隣を
小治田ちもこころいふれはこころいふれはこころいふれはこころいふれは
こころいふれはこころいふれは

反歌

思遣為便乃田付毛今者無於君不相而年之歷去者
おのいやるまへのたきまはまはちぎまはあはすてどりのぬれを

このうまに十二より歌ありて戦うたの及るふあはちぎまはあはすてどりのぬれを
かへしるの

後ヲ續ニ
誤

今案此反歌謂之於君不相者於理不合也宜言於妹不
相也

或本反歌曰

栞垣久時從戀為者吾帶緩朝夕毎

みづまのしきまはこころいふれはこころいふれはこころいふれは

後とて後を信れりこころいふれはこころいふれはこころいふれは
又新よはあはちぎまはあはすてどりのぬれを

右三首

巴母理久乃泊瀬之河之上瀬爾伊杭乎打 下湍雨
こわりのをつせのかくののみつきよいづこころいふれはこころいふれは
真杭乎格 伊杭爾波鏡乎懸 真杭爾波 真玉乎懸

まぐしをうちいひまがみをかけまぐしふはまたまをのけ
 真珠奈須 我念妹毛鏡成 我念妹毛有跡謂者社
 まぐしをうちいひまがみをかけまぐしふはまたまをのけ
 國爾毛家爾毛由可采誰故可將行
 くはもいひまがみをのけ

いづれまぐしのいひまがみはまがみとかけまぐしはまたまをのけ
 まぐしをうちいひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 出雲國造之祖名岐作都美飾青葉山而立河下將献大御食
 まぐしをうちいひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 抗をちとていひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 迦具夜麻斗迦麻迹佐和多流久毘比波とといひまがみをのけ
 まぐしをうちいひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ

樹之八十五籤よりいひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 今をいひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 うの夜大御女皇女と新夜と伝く伊与國へ流しなりまがみをのけ
 おりつぬれは國の家をいひまがみをのけまがみをのけ
 まがみをのけまがみをのけまがみをのけ
 賀母布都麻阿理や伊波遠行曾伊弊今母由加采久采表母斯怒婆
 采
 采

檢古事記曰件歌者木梨之輕太子自死之時所作者也
 反歌 此のうらやまの友をいひまがみをのけまがみをのけ
 年渡麻呂爾毛人者有云乎何時之間曾母五口戀爾来
 とていひまがみをのけまがみをのけまがみをのけ

そハ事はよく返る人ハ年子もあらずとて未令向一まの年ころハ一年
と傳は之

或書反歌曰

世間守倦跡思而家出為五哉難二加還而將成

よのちの事をいへば思ひていへばせられやなやのかわりなるとい

そハこと小者もあらずハあつて後のまゝに帰て入るといふのハ出家出俗

度ハよとていへば思ひていへばせられやなやのかわりなるといふのハ

り、あつてハ女の世にうゝまゝに思ひていへばせられやなやのかわりなるといふのハ

いへば思ひていへばせられやなやのかわりなるといふのハ

右三首

春去者花咲乎呼里 秋付者丹之穂雨黄色味酒平

春こそ去れは花もさきさきとてあきつげはみのひよとみづらまさげを

神名火山之帶丹為留明日香之河乃連瀬雨生玉藻之
かみまひやまのおひよせもあつてのけはのちやまをよらつたまもの
打 靡 情者 因而朝露之 消者可消 戀久毛
うちまひまきころよわつてあつてのけはのちやまをよらつたまもの
知久毛相 隱都麻鴨
とらるくもあつてこわつたまかも

花咲をよらつたまかもとらるくもあつてこわつたまかも
とらるくもあつてこわつたまかも
秋のちやまをよらつたまかも

反歌

明日香河瀬湍之珠藻之打靡情者妹爾因来鴨

あすの河はせのたまものうちまひまきころよわつてあつてのけはのちやまをよらつたまもの

かいらちまひきりくんの

右二首

三諸之神奈備山從 登能陰 雨者落来奴 雨霧相
みちろのかみまじやまゆとのくわあめふあきぬあまざらひ
風左倍吹奴大口乃 真神之原後思管 還雨之人
かぞへしあぬおほくものまづみのうゆあひつかつらふーんと
家雨到伎也

いづるあきね

あきらり棚よりあがりぬきしひはしりのまきとせしんか
甲くさるまじしきまじー大まじーあはすは同し風とのまじ
く大口の横間まけの原あきの西北今い五條しん思管ハ
く哭管のほろしんあまじーおれまじつと何へーうううー帰いふ

万解十三上 廿七

反歌

是の男ハも神の原の彼もくゆると女ハをかそふらとくあまらる
還雨之人乎念等野干玉之彼夜者吾毛宿毛寝金手寸
かつらひしとをおりてぬぐすまのそのよいれいしぬうぬてま
人とあつていれまててくあまよまてぬ日の長

右二首

刺將燒少屋之四忌屋雨搔將棄破薦乎敷而所搔將折
さーやうしんやのまじやあまじーあれどもとまそか
鬼之四忌乎平指易而將宿君故 赤根刺 書者
志このまじそをまじかつらぬたすまふゆをあぬさしむ
終雨 野干玉之夜者須柄雨 此床乃比師跡鳴左右
志めらぬぬまのよるまじがうふののひーとわらま

黒髮布而 人寢 味眠不睡而大舟乃往良行羅二
くろかみききくいよのねるうまいねぞておらねのゆるゆるに
思乍 吾睡夜等呼 續文將敢鴨
おそひつわのねるよらをよみしあつんも

ちよいつやくは白栱の句のふ句のあきさるるうへー續ハ讀の字の
誤るんよじいぬつてんあんなかどつるまほやうん

反歌

一眠夜算跡雖思戀茂二情利文梨

ひとぬふよいとよまんもれんぞいよのまけさるるうへーたう
ちよふようてくうよまんもれんぞいよのまけさるるうへーたう

右二首

百不足 山田道平 浪雲乃愛妻跡 不語

かたらしやまののみちとたもくものうつろつまのこころを
別之来者速川之 往文不知 衣袂笑 反裳不知
ころれれれぞやまのゆくしきんころむのころるいよの
馬自物立而爪衝 為須部乃田付乎白粉 物部乃
うまのたちてつまつてせんまのたきをまらふそのよの
八十乃心呼天地二 念足橋 玉相者 君来益八跡
やそのころろとあつちふゆひたうりたまあをきみさまをや
吾歎 八尺之嗟 玉拵乃道來人之 立留
わのたけくやまののたげきたまがこのみらるるいよのたちとまり
何常問者 吞遣 田付乎不知 散釣相 君名曰者
いよのころろとあつちふゆひたうりたまあをきみさまをや
色出 人可知 足日本能 山後出 月待跡

身誰夜訪

反歌

眠不睡五息君者何處邊今身誰與可雖待不來

いそねぞわがとよきみいづてとよしいとまのまてどきまをぬ

今身誰とあるか今夜訪しとてはほねるもべしそと女のこころい

あゝ

右二首

赤駒

鹿立

黒駒

鹿立而

彼乎飼

あゝこまのうまやをうてとろこまのうまやをたてとそをかひ

吾往如

思妻

心乘而

高山

峯之手折丹

わづゆぐととせむいづまらうのうてたうやまのみねのこころふ

射目立十六待如

床敷而

吾待公

犬莫吠行年

いめんととてまのこころととてきそわがまつきみといわさほんそ

あゝこまのうまやをうてとろこまのうまやをたてとそをかひ

わづゆぐととせむいづまらうのうてたうやまのみねのこころふ

射目立十六待如 床敷而 吾待公 犬莫吠行年

いめんととてまのこころととてきそわがまつきみといわさほんそ

あゝこまのうまやをうてとろこまのうまやをたてとそをかひ

わづゆぐととせむいづまらうのうてたうやまのみねのこころふ

射目立十六待如 床敷而 吾待公 犬莫吠行年

いめんととてまのこころととてきそわがまつきみといわさほんそ

あゝこまのうまやをうてとろこまのうまやをたてとそをかひ

反歌

葦垣之未搔别而君越跡人丹勿告事者棚知

あがきのよもかをわけてきまひとゆいひとよまっげそこいふたあられ

さむらう二おほき垣かきかててささしぬちやまらるる
ゆるりぢあま犬をひえそねといふとさうして人よきまらるる犬よおらす
棚知いたをれとよとまのゆるりといふとまらるる犬よおらす
のほろたをれとよとまのゆるりといふとまらるる犬よおらす

右二首

妾背兒者雖待不來益 天原 振左氣見者黑玉之

わのせこいまてどきまのいすあまのけらあやけいれぬいもの

夜毛深去来左夜深而荒風乃吹者立留 待吾袖雨

よもふけいけやあけてあまのふけわたちとまらまらわのそふ

零雪者凍渡奴 今更 公來座哉 左奈葛

ふるゆきいこほりわいぬいまやうらにきまきまめやまのつづ

後毛相得名草武類心宇持而 三袖持 床打拂

のちもあんとたかくもむるころをわらてみかてわらとこらちい

卯管庭君雨波不相 夢谷 相跡所見社 天之足夜子

うつふけきみまにあいふいめだあふとみえこそあまのたわふに

立留待ハ立待雨とととと雨と雷と雷と下と下とへあつとへたつ

ふわがころわてふもふふーたの或本のあまの合せとととと公來の下

古本持のまも後毛の下持のまもととととととととととととととととととと

同く、あまの神をいり、夜まらるる、夜まらるる、夜まらるる、夜まらるる

ゆくと齋してゆるれ、又又と神よ、あまのん、あまのん、あまのん、あまのん

祀、天の足夜ハ長とととととととととととととととととととととととととと

うこ、あまのよとととととととととととととととととととととととととと

或本歌曰

五背子者待跡不來鴈音文動而寒烏玉乃霄毛深去来

竹珠呼之自二貫垂天地之神呼曾吾乞痛毛須部奈見

とつゆきてハ文ある布のしりまゝに宿好考とつてまきこの像よあし

反歌

乾地乃神乎禱而吾意公以必不相在目ハ毛

あめつちのかみといのまゝにわづらふまきよかたあらずあはまらめやし

以ハ似の法もさし

或本歌曰 今本反歌曰とあるハ法也

大船之思憑而木始已彌遠長我念有君爾依而者言之
故毛無有欲得木綿手次肩荷取懸忌戸字齋穿居玄黄
之神祇二衣吾祈甚毛為便無見

木始已といふのはれ、河にれといふは、三文字逆絡石をいふも、ちよんべい、まきよかたあらずこの、河にれといふは、或人誤本始、木綿手次、根に己の上如

齋ヲ齊
二程

右五首

の字をばやると、まのま十に如已といふは、河にれといふは、ちよんべい、まきよかたあらず、木の本の根始ハ如の根まゝ、本如已といふは、これねといふは、河にれ、ゆいといふは、本海りてせし、釋と持るは、まきよかたあらず、河にれといふは、

010190519266

三

万解十三上終 三十八

16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100



安政三丙辰秋補刻

橋下蔭夫人著

萬葉集略解

尾陽

東璧堂藏